

Motette „Jesu, meine Freude“ BWV 227

モテット

「イエスよ、わが喜び」

コラール (1,3,7,9,11曲)

作詩：Johann Frank (1653)

旋律：Johann Crüger (1653)

聖書テキスト (2,4,5,6,8曲)

Römerbrief (ローマ人への手紙) 第8章

1. コラール



Je - su, mei - ne Freu - de,

*Jesu, meine Freude,
meines Herzens Weide, Jesu, meine Zier,
ach wie lang, ach lange ist dem Herzen bange
und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
außer dir soll mir auf Erden nichts sonst Liebets werden.*

イエスよ、あなたは私の喜び、私の心の糧

イエスよ、あなたは私の大切なもの

ああ、なんと長い間、心は不安になり

あなたを求めたことだろう。

神の子羊で、私の花婿、あなた以外

この地上で愛する人はいません

曲はイエスへの呼びかけで始まる。不安や恐れ
の背景から救い主を希求している様に
Bach の音楽は響く。„Gottes Lamm, mein
Bräutigam“ (神の子羊で、私の花婿よ) で一
瞬安堵し魂が穏やかになるが、またすぐ不安
感が募って来る。

このコラールが持つ怖れや不安が基本感情
であり、それがその後の音楽を展開する上で
大事な前提条件となる。

2. 五声部による教訓的モテット (Spruchmotette)



Es ist nun nichts, nichts,

*Es ist nun nichts Verdammliches an denen,
die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische wandeln,
sondern nach dem Geist.*

今やイエス キリストにある者は、

すなわち 肉体のみでさまよい歩く者ではなく、

霊によって歩む者である。

彼らには、罪の宣告はない。

前のコラールの雰囲気を通り越すかの様に
演説調に強い意志をもって始まる。まず強く
„Nichts“ と歌った後全パートが一瞬沈黙し
参列者に注目を与える。そしてハーモニーを
変え、声をひそませて列席者に問い掛け、少
し長い休符で考えさせてから一気に「キリスト
の中にある人は罪の宣告はない」と説得力の
ある語り口で論説する。「キリストにある人」と
は当ても無くさまよう („wandeln“ する)
„Fleisch“ (肉=肉体) だけの人間でなく、
„Geist“ (聖霊) により生きる人間であると、
Bach も音楽で主張する。

3. コラール



Un - ter dei - nem Schir - men

*Unter deinem Schirmen
bin ich vor den Stürmen aller Feinde frei.
Laß den Satan wittern, laß den Feind erbittern,
mir steht Jesus bei.
Ob es itzt gleich kracht und blitzt,
Ob gleich Sünd und Hölle schrecken: Jesus will mich decken.*

あなたの庇護のもとで
あるゆる敵の攻撃から免れている。
サタンが勇み立つままにしておけ、敵を怒らせたままにしておけ、
イエスは私のそばにおられる。
いま、まさに轟音が響き稲妻が走ろうとも、
罪と地獄が怖がらせても。

バスの音の長さはコラールの作曲上、ソプラノと同じであるが、「Unter」「bin」「Lass」等の言葉は3拍目まで引っ張っている。規則の枠を飛び越えた所にBachの表現の真実がある。荒れ狂う世界やサタンの怒りに必死に抵抗している様である。

4. 三重唱 (ソプラノ I, II, アルト)

*Denn das Gesetz des Geistes,
der da lebendig machet in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht
von dem Gesetz der Sünde und des Todes.*

すなわちイエスの中で
生きいきと活動している霊の法則は、
罪と死の法則から私を解放した。



Denn das Ge - setz des Gei - stes

前半は並走する2声のソプラノに対しアルトが大枠で支える。「hat mich frei gemacht」(私を自由にした)からは、束縛や重圧からはなれた表情が跳躍や上行する音形で対応している。

5. コラール変奏

*Trotz dem alten Drachen, trotz des Todes Rachen,
Trotz der Furcht darzu!
Tobe, Welt, und springe,
Ich steh hier und singe in gar sichrer Ruh.
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muss verstummen,
ob sie noch so brummen.*

古い竜(悪の化身)に抵抗せよ、
深淵に抵抗せよ、そして恐怖にも!
世界よ、荒れ狂え、裂けよ、
私はここに立ち確かな安らぎの中で歌います。
神の力は私を守り続けるので、
たとえ大地と深淵がどんなに不平を言っても
沈黙せざるを得ない。



Trotz, Trotz dem al - ten Dra - chen,

厳格なコラール形式ではないが、コラールメロディーが伏線となりドラマティックに展開する。初めにBachはいきなり「Trotz」(抵抗せよ)と言う言葉に、属七和音で不安定かつテンションの高い響きを与え、むき出しの感情が叫びとなって始まる。言葉の音楽的象徴も聴こえてくる。例えば、「Furcht」(怖れ)の震える8分音符、「tobe」(荒れ狂う)はバスの16分音符で激しく駆け上がる音型、「Erd und Abgrund」(大地と深淵)では音程が平面からいきなり奈落へ急降下し、「brummen」(不平を言う)はUの母音の色でぶつぶつ言ってる様を表わしている。

9. コラール編曲 4重唱(ソプラノ I, II, アルト, テノール)



„Wesen“ (世俗的なもの)、「Sünden」(罪)、「Stolz und Pracht」(高慢や虚飾)なものから解放された内面的平安が基調となっている。そのため Bach がソプラノ 2 声に与えたフレーズは世俗の様々なものが沈み込み、遠ざかっていく様子を表わしている。

*Gute Nacht, o Wesen,
das die Welt erlesen, mir gefälltst du nicht.
Gute Nacht, ihr Sünden,
bleibet weit dahinten, kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
gute Nacht gegeben!*

おやすみ、
この世に選り出され存在しているものよ、
おまえは私の心にかなうものではない。
おやすみ、
おまえたち罪の数々よ、遠く陰(暗闇)にとどまりなさい、
お前たちに光があたることはないのだから。
おやすみ、
高慢と虚飾よ。自堕落な人生よ、
おまえにもおやすみ(さよなら)を言い渡そう。

10. 教訓的モテット(Spruchmotette)



*So nun der Geist des,
So nun der Geist des,
der Jesum von den Toten auferwecket hat,
in euch wohnt,
so wird auch derselbigen,
der Christum von den Toten auferwecket hat,
eure sterblichen
Leiber lebendig machen um des willen,
dass sein Geist in euch wohnt*

もし、イエスを死者の中から蘇らせた霊が
あなたがたの内に宿っているなら、
それと同様に
キリストを死者から復活させた霊が、
あなたがたの死すべき肉体を
生かそうとしている、
それがあなたがたの内に宿っている霊である。

音楽の形式的は 2 曲目を少し短縮し、それに新しいテキストをあてはめている。

„in euch wohnt“ (彼らに宿っている) の「宿っている」のは „Geist“ (霊) である。Bach はそれを生き生きと描いている。

11. コラール



*Weicht, ihr Trauergeister,
Weicht, ihr Trauergeister,
denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
muss auch ihr Betrübten lauter Zucker sein.
Duld ich schon hier Spott und Hohn:
Dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.*

退け、悲嘆にくれる霊よ、
私の喜びの主人、イエスが入ってこられる。
神を愛する者たちにとって
悲しみも大いに砂糖(= 歓喜)になることであろう。
私は今まで嘲りや軽蔑を耐え忍んできた、
今後も苦しみの中にあっても
イエスよ、あなたは私の喜びです。

1 曲目のコラールに回帰する。これで完全なシンメトリーな楽曲構造は完成する。全ての困窮、苦悩、あざけり、悲嘆を耐え忍んだ心にはイエスの霊が入りこみに喜びがもたらされる。